

## 「復興農学会」事務局会議（第44回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2022年3月23日（水）18時00分～18時50分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、佐伯 爽（同）  
（敬称略）

### 議事録

#### 1. 研究会の開催について（溝口、杉野、佐伯）

溝口 教授、杉野 助教、佐伯 研究員より、去る3月18日（金）に研究会が無事、盛会裡に開催されたことが報告された。講演題数は26題、Web上で確認できた参加者数は最大で54名、平均で40名程度であった。総合討論では活発に意見が交換された。また、すべての発表と総合討論がYouTubeにアップされ学会Webからリンクが張られていること、参加者にアンケート調査が実施されたことも合わせて報告された。

#### 2. 日本農学会シンポジウムにおける講演決定と企画委員の選出について（新田）

新田より、来る10月1日に日本農学会主催のシンポジウムが開催されるが、本学会から提案していた話題提供が採用されたことが報告された。概要は以下のとおり。

また、本学会から本シンポジウムにかかる企画委員を選出する必要があり、審議の結果、杉野 助教に担当いただくことが了承された。

##### ・2022年度日本農学会シンポジウム

全体テーマ：カーボンニュートラルの達成にむけた農学研究

開催日時：2022年10月1日（土）10時00分から

会場：東京大学弥生講堂 オンライン配信など

参加対象：一般（高校生、社会人など）、大学生・大学院生、若手研究者

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科、（公財）農学会

本学会から話題提供：

溝口 勝 教授（東京大学大学院農学生命科学研究科）

演題：地域バイオマスを活用した堆肥づくりと除染後農地土壌の肥沃度向上

#### 3. 来年度の事務局会議開催について（新田）

新田より来年度の本会議の開催について、開催頻度、曜日・時間等についての検討依頼があった。審議の結果、開催頻度は原則として月1回とすることが了承された。また、開催曜日・時間については「伝助」で意見聴取して検討することとなり、後日、新田が設定しメンバーに連絡することとなった。

#### 4. その他

##### （1）来年度の「復興知」事業の審査結果に付された全事業にたいする「付帯意見」について（溝口）

溝口 教授より、来年度の「復興知」事業の審査（3月18日）の結果、すべての事業にたいして「付帯意見」が付され、その中に、「農業分野の取組」として以下の指摘（枠内）があったが、復興農学会メンバーでもある農学分野の「復興知」事業実施大学は、当然このことを考慮して事業を進めており、そのような意見が出された理由や、何をさらに求めようとしているのかが不明であるとの照会があった。

○今後の活動にあたって、SDGs や環境を念頭に置いた人材育成に一層力を入れてもらいたい（特に、農業分野の取組は、みどりの食料システム戦略を念頭においてほしい）。

このことについて意見交換した。概略、以下のような意見が出された。▼農学系の「復興知」事業実施大学は去る12月10日に、復興農学会をとおして復興大臣あてに「国際研究教育拠点における農林水産分野の研究に関する要望書」を提出しており、その中に「付帯意見」で指摘されたことは十分に含まれているが、イノベ機構がどうしてこのような意見を出したのかが、さらに何を求めているのかがわからない、▼本学会としてイノベ機構にそのあたりを問い合わせるかどうか、▼問い合わせや意見を申し述べる際、この付帯意見は本学会あてではなく「復興知」事業実施大学に付されたものであることから、後者から発出するのがよいのではないか、▼イノベ機構に何らかの形で意見を申し述べないと「復興知」事業実施大学の事業が誤解されるおそれがある。

審議の結果、イノベ機構にたいする「意見書」をとりまとめ、農学分野の「復興知」事業実施大学から連名で提出してはどうかとのことになった。なお、「意見書」の文書は東京大学 溝口 教授がとりまとめ、新田が農学系の「復興知」事業実施大学関係者に意見聴取を進めることとなった。

## 5. その他

なし

以上

## 今後の予定

- ・事務局会議（第45回） 2022年4月★日（★）★時★分から  
（後日、「伝助」で日程について意見を聴取して決定）